

# 平成 15 年度試験研究成果書

区分	指導	題名	中山間地域に適した宿根草・枝物の品目別収益性		
[要約] セントーレア・マクロセファラなど 8 品目は所得が見込まれ、これらの品目を組み合わせることで 6 月から 3 月までのほぼ周年出荷が可能である。					
キーワード	中山間	宿根草・枝物	収益性	県北農業研究所 企画経営情報部	産地育成研究室 農業経営研究室

## 1 背景とねらい

中山間地域では、高齢化、過疎化が進展している。一方、花きの消費者ニーズは、多様化が進み、アレンジメント等自然さを表現する草花類、枝物類の需要が拡大してきている。

そこで、中山間地域の早期秋冷気象等変化に富んだ気象条件や遊休農地を活用した地域振興型特産作物としての品目選定に取り組んできた宿根草・枝物について、現地導入の参考となる品目ごとの収量性、労働時間、収益性を試算した。

## 2 成果の内容

- (1) a 当たり所得が見込める品目は、セントーレア・マクロセファラなど 8 品目である（表 1）。
- (2) アルケミラ・モーリス、パニカム・ジャーマン、モナルダ・パノラマ、ヒメヒマワリ・サンバーストの 4 品目は労働集約的品目で、セントーレア・マクロセファラ、オミナエシ・早生名古屋、アキレア・パールスベリオール、サンゴミズキの 4 品目は土地利用型品目である（表 1、図 1）。
- (3) これらの品目を組み合わせることで、6 月から 3 月までのほぼ周年出荷が可能である（表 2）。

## 3 指導上の留意事項

- (1) 宿根草・枝物の具体的な導入に当たっては、出荷先市場の需要動向や要望を十分確認し、より商品性が高く効率的な生産出荷に努める必要がある。
- (2) 実需者ニーズについては平成 14 年度試験研究成果「中山間地域の生産に適する宿根草・花木の実需者ニーズ」を参考にすること。
- (3) 宿根草・枝物の組み合わせについては、各経営の労働力や耕地面積の条件に合わせて、導入品目及び栽培面積を決定すること。
- (4) 宿根草の一部品目（パニカム・ジャーマンなど）は一斉収穫により採花調整時間の短縮が可能である。除草作業については、マルチ被覆や中耕除草などの対策を講じること。

## 4 成果の活用方法等

- (1) 適応地帯又は対象者等  
適応地帯 県下全域  
対象者 中山間地域における露地宿根草及び枝物栽培志向農家
- (2) 期待する活用効果  
中山間地域における宿根草・枝物の適切な導入が図られ、農家所得の向上と地域活性化に役立つ

## 5 当該事項に係る試験研究課題

- (483) 地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立
- (2430) 宿根草・花木を組み合わせた長期継続出荷体系の確立
- (3300) 開発技術の経営評価と生産・流通システムの策定[H13 ~ H15 国庫助成]

## 6 参考文献・資料

- 平成 14 年度試験研究成果 「中山間地域の生産に適する宿根草・花木の実需者ニーズ」
- 平成 13 年度試験研究成果 「中山間地域に適した宿根草・花木の特性」

## 7 試験成績の概要

表1 宿根草・枝物の品目・品種別収益性

品目・品種名	a 当たり 単価	a 当たり a 当たり	自家労働	自家労働
	収量 (千本)	(円)	労働時間 (時間)	所得 2人当たり 2人当たり 作付可能面積最大可能所得
アルケミラ・モーリス	11.4	20.0	114.6	
アキレア・パルスパリオール	5.2	15.3	65.1	
宿根 ヒメヒマワリ・サンバースト	6.0	13.0	88.9	
セントーレア・マクロセファラ	2.6	49.5	54.5	
草 モナルダ・パノラマ	5.3	30.1	72.2	
オミナエシ・早生名古屋	2.0	25.1	56.1	
パニカム・ジャーマン	27.4	14.2	173.7	
枝物 サンゴミズキ	3.9	27.2	144.5	

- (注1) 栽植様式 2条植え(40×30cm) アルケミラ、アキレア、ヒメヒマワリ、モナルダ、オミナエシ  
3条植え(30×30cm) パニカム 1条植え(70×70cm) サンゴミズキ
- (注2) a 当たり収量 採花・切り枝3ヶ年の平均×生存株率×80%(収穫ロス率20%)
- (注3) 平均単価 東京都内花き市場の東北研究所内における出荷期の平均単価(モナルダとパニカムは平成15年度)
- (注4) a 当たり労働時間 東北研究所内の作業労働時間より算出
- (注5) a 当たり所得 粗収益(収量×単価) - 費用(物財費+成園費+流通経費+光熱動力費+農具費)  
: 10万円以上 : 1~10万円 : 1万円以下
- (注6) 自家労働2人当たり作付可能面積 2人当たり旬労働時間/最大旬別採花調整時間  
: 25a以上 : 10~25a : 10a以下
- (注7) 自家労働2人当たり最大可能所得 a 当たり所得×自家労働2人当たり作付可能面積  
: 100万円以上 : 50~100万円 : 50万円以下

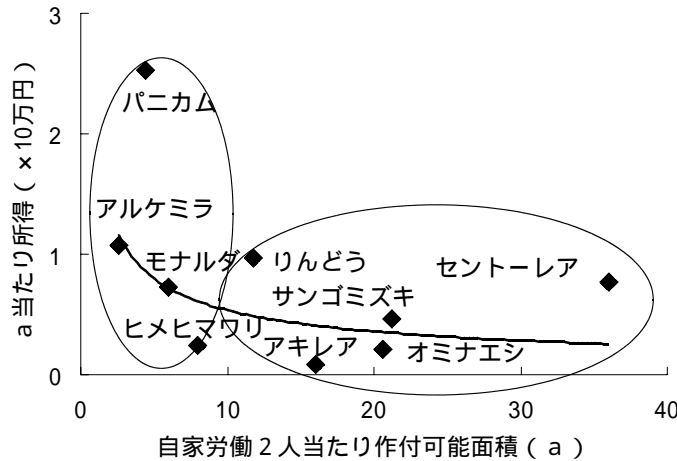


図1 宿根草・枝物の品目別収益性及び作付導入面積

- (注1) りんどうは生産技術体系(岩手県、平成8年)より試算
- (注2) 自家労働2人当たり作付可能面積 旬2人当たり労働時間/最大旬別採花調整時間
- (注3) 自家労働2人当たり最大可能所得 a 当たり所得×自家労働2人当たり作付可能面積

表2 宿根草・枝物の品目別月別労働割合

品目・品種名	月別労働時間割合									採花・切り枝 ピーク	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12~3月		
アルケミラ・モーリス		**	*****								6月上旬
アキレア・パルスパリオール		*	***	*	*	*					6月中旬
ヒメヒマワリ・サンバースト		*	*	***	*	*					7月下旬
セントーレア・マクロセファラ		*	**	**	*	*					7月上旬
モナルダ・パノラマ		*	*	****	*	*					7月中旬
オミナエシ・早生名古屋		*	*	*	**	*					8月上旬
パニカム・ジャーマン					****	*****					8月下旬~9月
サンゴミズキ						***	***	***	***		9月下旬~3月
参考 りんどう(早生)				*	*****						8月上旬
(中生)					**	****					9月上旬
(晩生)						****	*				9月下旬
(極晩生)							*****				10月中旬

(注1) 労働時間割合の\*は期間計の10%を表す

(注2) 網掛けは採花・切り枝期間を表す